

新収蔵資料展

New Collection Exhibition

# 朔太郎を刺繍す

ティム・サトミ

Sakutaro, Embroidered by Tim Satomi



2023  
9/23 Sat. - 12/24 Sun.

開館時間：9～17時（入館は30分前まで）  
会場：2階企画展示室

観覧料：一般500円  
※高校生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料

休館日：水曜日

観覧無料日：9/23[土・祝] 展覧会初日

10/7[土]・8[日] 前橋まつり

10/28[土] 群馬県民の日



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

Maebashi City Museum of Literature



# TIM SATOMI

しゅう 朔太郎の詩18篇を刺繍す



旅上  
まどろすの歌  
すえたる菊  
およぐひと  
くさつた蛤  
竹  
青猫  
田舎を恐る  
寝台を求む  
薄暮の部屋  
月夜  
恐ろしく憂鬱なる  
春の実体  
ばくてりやの世界  
蛙よ  
亀  
猫  
柳  
火



## ティム サトミ Tim SATOMI

1949年、岐阜県郡上八幡(郡上市)生まれ。文化服装学院卒業後、京都、大阪、東京でアトリエを開き、刺繍を指導。テレビ、雑誌、展示会の美術装飾や衣装を担当するなど、多方面で活躍する一方、個展やグループ展で作品を発表。前橋文学館で開催した「詩集『月に吠える』100年記念展(2017年)」「サクタロウをアートする」展(2018年)では「朔太郎を刺繍す」シリーズを発表。刺繍表現の域を広げた創作活動を続け、アーティストや美術関係者からも高い評価を得ている。



刺繍作家、ティム サトミは、今年《朔太郎を刺繍す》シリーズ18作品を前橋文学館へ寄贈しました。

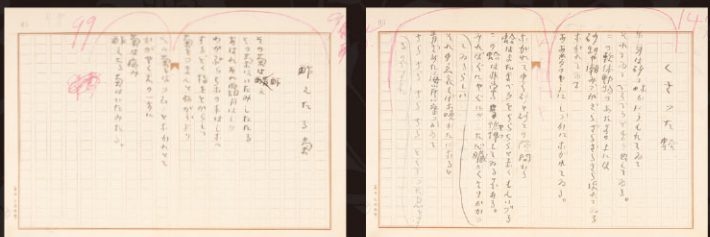
本展では、これら一連の作品とともに、モチーフとなった朔太郎の詩に関する自筆原稿や著書、雑誌などをあわせて公開いたします。

ティム サトミが地域や年代を越えて集めた素材(古布、木材、写真、ビーズ、糸など)を創意的に選び、「手仕事すること」で、ヴィジュアルイズされた朔太郎の珠玉の詩、18篇。

アートとことばが織りなす特別な空間を、どうぞお楽しみください。



萩原朔太郎自筆原稿



8-9 萩原朔太郎自筆原稿帖「蝶を夢む」より 8、「すえたる菊」 9、「くさつた蛤」



表紙および1~7 ティム サトミ《朔太郎を刺繍す》シリーズより 表紙(くさつた蛤)部分 2017年 着袴、帯地、ラメ糸、フェネチアンビーズ 撮影:伊藤浩子 1.《青猫》(部分)2010年 編製チュール、ラメ糸、枝、ガクセミの羽、スッポンの骨、古布、ガラス、バステル 2.《春の実体》(部分)2018年 薄絹地、ラメ糸、銅糸、スパンコール、レース、編製リボン、鳥の羽、インド製古布、サリー 3.《月夜》2018年 絹地、椅子、真鍮・綿織物 4.《強柳》2017年 柿渋染、ラメ地の墨染、シャンテリガラス、スパンコール、墨、和紙 5.《旅上》(部分)2019年 蚊帳地、銅糸各種、黒絹糸、袷袋、ビーズ《すえたる菊》(部分)2017/2019年 白布地、タッセル、帯地、木綿糸、薄絹地 撮影:ティム サトミ 6.《竹》(部分)2017年 帯地、絞りのひも、古布、皮、絹、麻糸、竹皮 7.《およぐひと》(部分)2018年 アフティーク鹿皮製手袋、麻布、和紙、ホログラム、フリューム(漆塗)

担当学芸員によるギャラリーガイド  
10/7(土)15時~

同時開催 「空ぞう 虹になれ  
-生誕130年記念高橋元吉展」  
・9/16(土)~12/3(日)・会場:3階オープンギャラリー



※八瀬川サンワパーキング(市営P城東)をご利用の場合、駐車券に割引処理を致します。

### アクセス(交通案内)

- ◆ 電車: JR前橋駅北口から徒歩約15分 / タクシーで約10分 / 上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分
- ◆ バス: JR前橋駅北口バスのりば  
● 3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)「中央前橋駅」下車 徒歩約5分  
● 6番のりばから「荻窪公園・瀬公園」行き「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分
- ◆ 自動車: 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

前橋文学館  
展覧会案内サイト



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち  
**前橋文学館**

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10  
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512  
<https://www.maebashibungakukan.jp>